

「ジュニア防災リーダーの活動を通して」

大分県 中津市立樋田小学校 6年 <sup>かわかみ</sup>川上 <sup>そうへい</sup>創平

ぼくが土砂災害のことを初めて知ったのは、4年生の時に市が募集していたジュニア防災リーダーを受講した時です。昨年度に中津市が高学年を対象に防災意識を高めることを目的にジュニア防災リーダーを募集しました。

この研修の中では、防災食や避難所の設置訓練の他に土砂災害けいかいハザードマップの見方についても教わりました。また、土砂災害には「がけ崩れ」「土石流」「地すべり」の三種の種類があり、実際にその映像を見て、ちがいを学びました。ぼくの住んでいる地域のハザードマップを確認すると、ぼくの家は2方向からの土石流のけいかい区域に指定されている事がわかりました。大雨や台風の時は、目の前の山国川がはんらんし、川の近くの家が床上浸水をしたり、道路が通行止めになります。今までぼくは被害がでている川のことにしか目が行きませんでした。後ろの山から土石流が来るかもしれないということまで考えていませんでした。しかしこのマップを見て、土石流がくるとこわいので、大雨や台風の時は少しでも安全を確保できるように2階の部屋でねようと思いました。また、非常用持ち出し袋も忘れずに準備をしておこうと思いました。

そして、ぼくの住む町の中で、人が住んでいる場所のほとんどがなにかの危険地域にかかっていることもハザードマップを見て分かりました。山の近くに住んでいると土砂災害や河川やため池のはんらんなどの危険ととなり合わせだと感じました。逆に海の近くに住んでいると津波などの危険を心配しないといけません。どこにいても絶対に安全な場所なんてどこにもないと思いました。だからこそ、避難所が開設された時は、早めに避難をしようと思いました。

また、ぼくの住む中津市では平成30年に耶馬溪町金吉地区で幅200メートルにわたる大きな土砂崩れが起こり、三世帯6人の方が土砂に飲み込まれぎせいになりました。土砂崩れの日はお姉ちゃんの中学校の入学式で、朝から家族みんなで楽しみにしていたけれど、お父さんはあわてて家を出ていったと言っていました。ぼくが5歳の時でした。この土砂崩れの前は、ほとんど雨が降らなかったみたいで原因となる決め手がなかったと知りました。また、地下水が山の上の方に集まり、山のしゃ面の上の方の地質の強度が長い時間で弱くなり限界に達して崩れたと考えられるそうです。しばらく雨も降っていないのに、急に土砂崩れが起こり、人の生命や財産をうばうことに、本当に災害はいつ起こるかわからないと感じました。

どれだけ科学が進歩しても、地震や土砂崩れなど予測できないものがたくさんあります。大雨や台風は何日か前から予測ができます。しかし、予測できないものに対しては、防災教室や日ごろから避難訓練に参加するなどの備えをすることで、起こった時の被害を軽くすることはできる、と学びました。

だから、ぼく自身もジュニア防災リーダー研修で学んだことを、学校やいくつかの地域の防災教室で発表しました。地域の参加してくれた人は、熱心に話を聞いてくれました。そうすることで、被害が少しでもなくなればいいなと思いました。